

立教学院 環境レポート vol.3

2019年5月
立教学院 省エネルギー推進連絡会 発行



立教学院の環境配慮に関する方針、及び取り組み

本学院の環境保全活動は、「立教学院 省エネルギー推進連絡会」において、以下の方針のもと、各取り組みを推進しています。

ここでは、2018年度のCO₂排出量の概況、2018年度を中心とした取り組み事例、エネルギー使用量や、排出量等の推移について報告いたします。

地球環境の保全については、行政や企業がそれぞれの目標を設定して対策を講じるだけでなく、私たち一人一人が日常的に小さな対策を意識し実践していくことが大切です。目標だけでなく、皆さまの環境保全に向けた意識がさらに向上するよう、今後も活動を進めて参りますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

立教学院 環境保全の 取り組み方針

1. 環境に配慮した施設・設備の導入
2. エネルギー使用量の削減
3. 廃棄物・資源のリサイクル率向上
4. 化学物質等の適正管理
5. 進捗確認や啓発活動等の推進



1. 2018年度のCO₂排出量の概況

(1) 本学院の削減目標と排出量結果

- ・第2期（2015年～2019年）の4年目
- ・基準排出量に対し東京都17%、埼玉県15%を削減した値が目標値として設定されている。

単位：t-CO₂

校地	第2期 年間目標排出量	2018年度	差異	対比
池袋	8,690	9,233	543	106%
新座	4,680	4,550	-130	97%
合計	13,370	13,783	413	103%

(2) 超過の要因

次章（II. 2018年度までの取り組み事例）に示す、各校における環境に配慮した施設・設備の導入、エネルギー使用量の削減等の取り組みを行ったが、それを上回る以下の要因により、年間目標排出量に対し413t-CO₂、対比約3%の超過となった。

1) 天候不順の影響

7月～8月の酷暑（2017年度の平均気温約2℃上昇に続き、更に2018年度で1℃上昇）により、当該時期の空調運転稼働率が増加した。

2) 空調温度設定見直しの継続

前々年度より、教室・現場環境維持のため、建物状況に応じた空調温度設定としており、前述の影響と合わせ、当該時期の空調運転稼働率が増加した。



II. 2018年度における取り組み事例

(1) 環境に配慮した施設・設備の導入

老朽化、古い形式、故障履歴等から更新順位を設定し、空調設備や照明器具等を高効率型へ更新した。またモントリオール議定書のキガリ改正による代替フロン規制を受け、空調設備は新冷媒使用機器を検討している。旧フロンは順次、回収している。代替フロンは2019年1月1日より順次、回収している。



立教池袋中高 LED照明器具更新



新座中学校・高等学校 空調設備更新



立教大学池袋キャンパス
(第一食堂)
LED照明器具更新

(2) エネルギー使用量の削減

節電・節水・節ガスに向けた取り組み（全学院）

集中リモコンによるスケジュール・温度設定管理、現場巡回による使用していない教室などの照明・空調のスイッチオフ、またクールビズ、ウォームビズの実践、スイッチ周辺に節電・節水協力のステッカー貼付等の啓発活動を継続している。

(3) 廃棄物・資源のリサイクル率向上

1) ゴミの分別方法などの見直し（立教大学）

2017年度に実施した、ゴミの分別方法などの変更の結果、さらなる課題が抽出された。この課題を解決するため、適正な分別方法を周知するためのポスターを新たに貼付し、2018年9月から運用を開始した。この見直しにより「もやすゴミ」の量が昨年度より約14.4%減少し、池袋・新座両キャンパスの合計でリサイクル率が約9.9%向上した。

2) 落葉の処分（立教大学・新座キャンパス）

秋～冬に発生する大量の落ち葉について、新座・富士見市及び近隣の農業協同組合のご協力のもと、複数の農家に無償で引き取っていただいております。今後も継続していただく予定である。これらの落葉は堆肥化（腐葉土）されリサイクルされている。

(4) 化学物質等の適正管理

1) 化学物質など

教育・研究で使用する化学物質及び排水処理について、法規を厳守した基準・マニュアルに準拠し、年間を通じて適正に管理している。化学物質については、購入・使用・廃棄を一元管理する薬品管理システムを導入し、かつ定期的に棚卸を実施し、適正かつ厳正な管理を継続している。

2) ポリ塩化ビフェニル（PCB）汚染物

各校全てのPCB汚染物については、法規を厳守し、適正かつ厳正に管理している。2017年度までにこれらの内、低濃度PCB汚染物のすべてと高濃度PCB汚染物の一部の処理が完了した。2018年度は、立教大学原子力研究所内（神奈川県横須賀市）で保有する高濃度PCB汚染物の処理を完了させた。現在保有している高濃度PCB汚染物は、2019年度以降に順次、処理する予定である。

3) 吹き付けアスベストなど

使用されているアスベストなどの全ての箇所について封じ込め・囲い込み措置済みであり、現在飛散はない。また措置済みの箇所は定期的な目視点検及び粉塵濃度測定を実施し、飛散状況の確認を継続している。2018年夏季に立教大学池袋キャンパス、5号館1階エントランスホール天井に封じ込めていたアスベストの一部が、漏水の影響により落下する事態が生じたが直ちに応急的な撤去を行い、かつ2019年度に、当該アスベストの全てを撤去する予定である。また当該部についても現在飛散はない。今後も定期的な点検・測定を継続し、適宜、適切な対策などを講じる。

(5) 進捗確認や啓発活動等

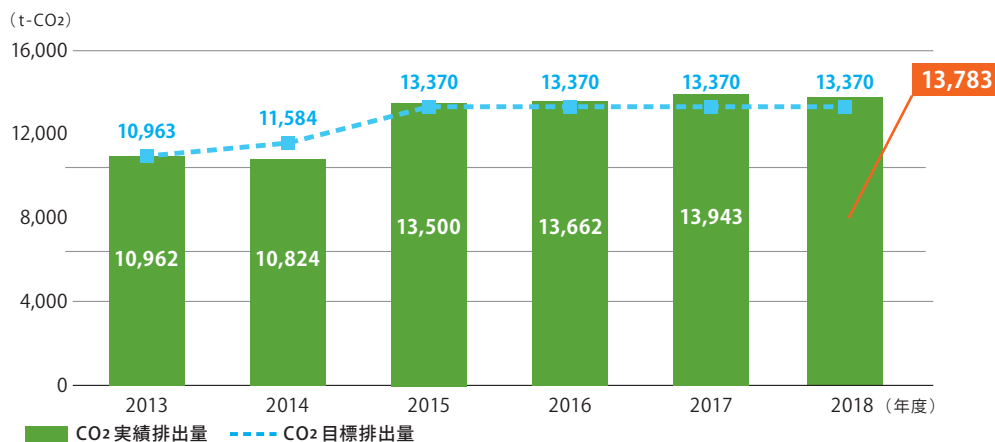
省エネルギー推進連絡会は設立以来、関係各校等で年度ごとに設定した取り組み目標について共有している。進捗状況を報告し、課題や改善点についても相互に確認・点検を行っている。



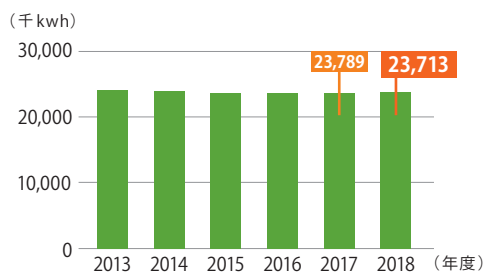
Ⅲ. CO₂排出量、エネルギー使用量・排出量等の推移

2013年度の池袋キャンパスにおける特別高圧設備導入以降、電気使用量はほぼ一定となっている。ガス使用量は、2015年度新座室内温水プール利用開始、2016年度空調温度設定見直し、2017年度は池袋体育館コジェネ本稼働等の影響により増加している。2015年度のCO₂換算係数見直しによりCO₂排出量は、基準排出量と合わせ増加した。2018年度は前述のとおり、天候の不順などにより空調稼働率が増加し、CO₂排出量が前年度比約1%程度増加した。

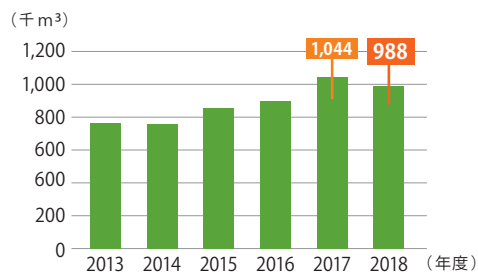
CO₂排出量



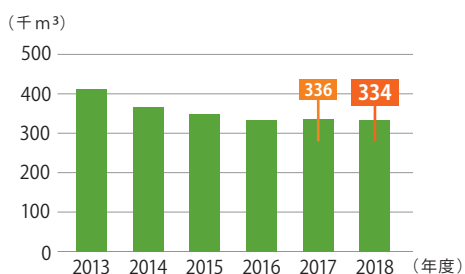
電気使用量



ガス使用量



水道使用量



廃棄物排出量

